

## 平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	東広島市立板城小学校		
学校長氏名	土生 士郎	栄養教諭氏名	小森 智美
職員数	37名	児童・生徒数	473名

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

昨年は、保護者啓発を重点においた取組を行うこと目標としてきたが、参観日での食育の授業の実施が同じ学年に重複し、3つの学年でしか実施できなかつた。参観日に実施した学年では、特に成果が見られた。今後も、教職員との連携を深め、保護者啓発の取組を進める必要がある。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

学校教育目標		
自ら学び よりよく生きようとする「板城っ子」の育成 ～自分が好き 友だちが好き 学校が好き ふるさと板城が好き～		
中期経営目標（健やかな体）		
健康的な生活習慣の形成		
項目	成果指標	目標値
○食育の推進	栄養教諭と学級担任との TT による食に関する指導の実施割合	100%
	食事を好き嫌いせず食べようとする児童の割合	95%

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

## 【取組 1】（テーマ） 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組

## 〔事例 1〕食育の授業における取組

食に関する指導の年間計画の中に、栄養教諭が各担任と TT で実施する教科等における食に関する指導を、全学年に位置づけ実施した。

学年等	実施時期	題材名	内容
1学年	1月	「給食ありがとう」	給食が作られる様子や給食に関わる人の思いを知ることにより、食べ物を大切にしている気持ちや、給食に関わる人たちに感謝の気持ちをもつ。
2学年	6月	「何でも食べよう」	野菜の働きを知り、苦手な野菜でも食べようとする意欲をもつ。
3学年	2月	「食べ物のパワーを知ろう」	赤・黄・緑の食べ物の働きを知る。また、給食は赤・黄・緑の食べ物がそろっていることに気づき、すききらいせず食べようとする意欲をもつ。
4学年	6月	「1日のスタートは朝ご飯から」	朝ごはんの働きを知り、栄養バランスのとれた朝ごはんの大切さに気付く。自分の食生活を振り返り、しっかり朝ごはんを食べようとする意欲をもつ。
5学年	7月	「バイキングに挑戦しよう」	栄養バランスに気をつけた食事が大切であることを理解し、バイキングにおいて栄養やマナーに配慮した食べ方を実践できる。
	12月	「バランスのとれた食事のとり方を考えよう」	リクエスト給食の献立作りを通して、栄養バランスのとれた献立のたて方を知る。また、家庭の食事や給食を作ってください人々への感謝の気持ちをもつ。
6学年	6月	「元気になる朝ごはんを考えよう」	1日を元気に過ごすための朝ごはんは栄養バランスが大切であることを学び、限られた材料を使って、バランスの良い朝ごはんを考える。そして、夏休みの課題（朝食作り）への意欲をもつ。
	10月	「『作って！食べよう！弁当 DAY！』にチャレンジしよう」	弁当作りのポイント（量・栄養バランス・いろいろ調理方法・つめ方）や地場産物を知り、弁当作りへの意欲を高める。また、献立作りや弁当作りを通じて、食べることの大切さに気付くとともに家族への感謝の気持ちをもつ。
特別支援学級	12月	「じょうぶな体を作ろう」	じょうぶな体づくりに特に大切な栄養であるカルシウムが豊富な食べ物を知る。また、カルシウムが豊富な食材を使ったお菓子作りを通して、苦手な食べ物を食べようとする意欲をもつ。

## 〔具体例〕 第6学年 家庭科「朝食から健康な1日の生活を～元気がでる朝ご飯を考えよう～」

本学年の児童は、4年生で朝ご飯の働きや栄養バランスのとれた朝ご飯の大切さについて学習し、5年生では、リクエスト給食の献立作りを通して栄養バランスのとれた献立の立て方を学習している。6年生では、特別活動や家庭科で学習してきたことを活かし、朝食の重要性を再認識するとともに、栄養バランスのとれた朝ご飯の献立を考える。そして、夏休みの課題として、家庭で朝食作りを実施する。これらの一連の取組により朝ご飯の大切さを認識し、栄養バランスのとれた朝ご飯を取る児童が増加した。



### 〔事例2〕 給食時間における指導

給食時間を活用し、栄養指導を行ったり児童と会食をしたりした。このことは、児童の食への関心を高めるだけでなく、クラスの実態を把握するとともに、児童とのコミュニケーションを図り、食に関する指導を円滑に進めることに役立った。

### 〔事例3〕 児童会委員会での取組

児童委員会（給食委員会）を担当し、児童の活動を支援した。給食委員会では毎日の給食放送や週2回の給食目標の呼びかけ、年3回の残食調べを行っている。8月以降、給食センターでは学校ごとの残食量の計量を開始し、その情報を学校が把握できるようになった。そのため、児童の活動の成果も確認できるようになった。児童が自ら活動し定期的に残食調べを行っていく中で、残さず食べようとする児童が増え残食率も減少した。

### 〔事例4〕 企業と連携した食育の取組

明治乳業が実施する食育出前授業「みるく教室」を実施した。企業がもつノウハウを活用した授業は、豊かな教材を活用した魅力的な授業であった。

（内容）

- ① 講話「骨って大切！」
- ② 体験「バター作り」



## 【取組2】（テーマ）保護者の食の意識向上への取組

### 〔事例1〕 食育参観の実施

年度始めに、参観日に学級担任と栄養教諭がT Tで食育の授業を行う学年を決定し実施した。参観日の授業時間は限られているため、学年ごとに合同の授業となったが、多くの保護者に参観していただくことができた。

- 〔6月〕 2学年 特別活動「何でも食べよう」
- 〔9月〕 4学年 特別活動「1日のスタートは朝ご飯から」
- 〔1月〕 1学年 特別活動「給食ありがとう」
- 〔2月〕 3学年 特別活動「食べ物のパワーを知ろう」



### 〔事例2〕 給食試食会の実施【10月13日】

1年生の保護者を対象に給食参観、給食試食、栄養教諭による講話を行った。講話では、学校給食センターでの衛生管理の様子や学校給食の意義や献立内容朝食の重要性、味覚の発達と偏食の関連などについて話した。

保護者からは、「学校給食の衛生面に安心した」「バランスのよい朝ごはんの大切さを感じた」などの感想をいただいた。



### 【取組3】(テーマ) 教職員の食に関する知識・理解を深めるための取組

#### 【事例1】教職員食育研修【8月7日】

夏季休業中の校内研修として調理による研修と学校での衛生管理について研修を行った。調理研修では、本年度の「ひろしま給食」を調理し試食した。また衛生管理についての研修では、ノロウィルスや嘔吐物の処理方法等についての研修を行った。これらの取組により、教職員のひろしま給食への関心や、学校における衛生管理の重要性についての理解がより深まった。



## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

### ○東広島市全体の取組

#### 【事例1】市内統一メニューの決定と実施

東広島市では、「ひろしま給食」メニュー決定に合わせ、最優秀レシピ賞の「熱く燃えろ!!Cスープ」に組み合わせるメニューを「ひがしひろしまお宝レシピ」として小中学校の児童生徒及び保護者に募集し、ひろしま給食と組み合わせ10月に実施した。本校では、6学年の児童が家庭科の課題として「ひがしひろしまお宝レシピ」に応募し、東広島市や県内の特産物について関心を深めることができた。



10月16日：「ごはん・瀬戸内の恵み揚げ・秋風さわやかきのこバター炒め・熱く燃えろ!!Cスープ・牛乳」

#### 【事例2】「ひろしま給食」に係る資料作成と配付

東広島市で実施するひろしま給食について給食だよりに掲載するとともに別途資料を作成し、県で作成された資料と合わせて保護者に配付した。また、本市の生涯学習フェスティバルの食育ブースに参加し、ひろしま給食の取組を紹介したり、レシピを配布したりした。

### ○本校および兼務する学校給食センターの取組

#### 【事例1】教職員食育研修での「ひろしま給食」メニューの実施

教職員食育研修において「ひろしま給食」メニューを調理、試食した。

#### 【事例2】地域への情報発信

スーパーマーケットに設置した食育コーナーで、「ひろしま給食」に関する資料やレシピ等を地域に配布した。

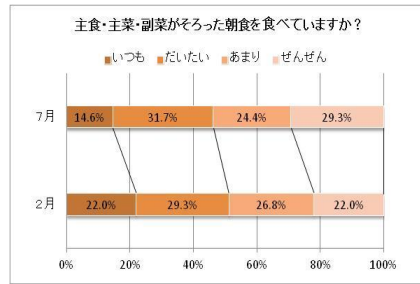
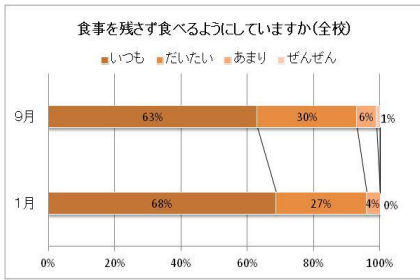
#### 【事例3】学校給食への継続した活用

毎月の給食メニューに、平成25年度からの「ひろしま給食」を取り入れた。

## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

本校に栄養教諭が配置されて3年目となり、担任とのTTで行う食育授業や給食時間を活用しての栄養指導が定着してきた。今年度は保護者啓発を進めるため、参観日での食育の授業を可能な範囲で実施した。多くの保護者に学校での食育の取組を理解していただくとともに、保護者自身の食の意識を高めることにつながった。また、教職員研修において、ひろしま給食の調理研修を毎年実施してきたが、教職員のひろしま給食への関心が深まってきたように思われる。その他、児童委員会（給食委員会）の活動の充実を図ることにより、委員会児童の食への意識が高められただけでなく、全校児童の食への関心が高められ、給食残食の減少につながっていると思われる。



## 【課題】

今年度は、保護者啓発のため食育参観の実施を推進してきたが、参観日での食育の授業の実施が4学年にとどまり、全学年で実施できなかった。また、教職員研修を夏季休業中に実施したが、出張等が重なり参加者が少なかった。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

「食」は家庭が占める割合が高く、食育を進めるにあたっては保護者の理解や協力が不可欠である。今後更に教職員との連携を深め、保護者啓発の取組を進めていきたい。また、養護教諭や保健主事等と連携し、組織的に多方面から取組を進めていきたい。